

各位

会社名 ラクスル株式会社
 代表者名 代表取締役社長 CEO 永見 世央
 (コード：4384、東証プライム市場)
 問合せ先 上級執行役員 CAO 西田 真之介
 (TEL. 03-6629-4893)

2024年7月期第1四半期決算説明会後の質疑応答内容について

2023年12月14日に開催いたしました機関投資家・アナリスト向け2024年7月期第1四半期決算説明会後、投資家の皆様より多く寄せられた質問とそれに対する当社の回答を、下記の通り開示いたします。

事業	質問	回答
全社	2024年7月期の通期会社計画に対する進捗及び2Qの業績見込みは	<ul style="list-style-type: none"> - 売上高及び各段階利益の大部分を占めるラクスル事業は順調にオーガニック成長を続けており、ラクスルグループの各種連結業績指標は1Q、2Q共に通期会社計画に対して例年と比較し高い進捗率。 - Quality Growthの方針に基づき着実に利益を伴った成長を目指す。 - 2Qの業績見込みは売上高は前年同期比+22-25%、売上総利益+35-40%、EBITDAは10-10.5億円の見込み。
ノバセル事業	ノバセル事業の落ち込み要因と見通しは	<ul style="list-style-type: none"> - ノバセル事業の1Q(8-10月)は一時的な商談数の低下により売上高が減少しているが、2Q(11-1月)は売上高で約7億円以上、売上総利益約4億円以上に回復し、EBITDAベースで黒字転換する見込み。 - 本質的には事業としてのボラティリティを下げ、持続的に成長をしていくため、大企業顧客への領域拡大、ソフトウェアの拡販、コンサルティングサービスの導入を行うことで長期的な顧客への価値提供と関係構築を目指す。
全社	本社移転に関わる固定費増は	<ul style="list-style-type: none"> - 定常的に発生する地代家賃や減価償却費の増加分は年間約3億円未満、さらに将来の被買収企業等のオフィス統合を進め、コストシナジーを発揮する。 - FY25には上記に加えて移転関連費用が発生し、定常的な影響と合わせて合計約5億円程度の影響を想定。 - 上記費用増による2025年7月期とそれ以降の利益成長の姿に対する影響は限定的。

以上